マスターズ広島 News Letter

第５号（２０１１年１０月１日）
発行：「広島大学マスターズ広島」事務局

【目次】

１．秋の例会の開催のご案内
２．第５回広島大学ホームカミングデーの開催のご案内
３．第２回総会・交流会の開催状況について
４．日韓理工系学部留学生向けの予備教育授業の担当について
５．外国大学の日本への留学希望者向けの夏期特別研修事業の授業担当について
６．広島大学の教養教育科目「平和科目」の授業担当について
７．会員のデータベースの作成について

１．秋の例会の開催のご案内

平成２３年度の秋の例会は、次のとおり世界遺産に指定されている宮島を、紅葉が一番きれいな季節に訪問する企画を考えました。ご家族お揃いでご参加いただければ幸いです。

宮島厳島神社宝物館・宝物収蔵庫、宮島水族館の見学

日程：平成２３年１１月８日（火）
　　１０：３０－１１：３０　宮島厳島神社宝物館・宝物収蔵庫の見学
　　１３：３０－１５：００　宮島水族館の見学
集合場所、スケジュール、見学先の簡単な説明等の詳細は別紙参照

来年のＮＨＫの大河ドラマが「平清盛」となった関係で、宮島の観光客が増えるのではないかと思いますが、このたび廿日市市観光課のご協力により、宮島厳島神社の所有物である国宝「平家納経」の実物を拝観しながら、同神社の宮司により特別に説明していただくとともに、廿日市市が管理している宮島水族館の館内の案内を職員の方にお願いすることができることになりました。

上記秋の例会にご参加をご希望の方は、本ニュースレターに同封の参加申込用紙に必要事項をご記入のうえ、１０月１７日（月）までに本会事務局宛に同封の封筒によりお申し込みください。

２．第５回広島大学ホームカミングデーの開催のご案内

広島大学の卒業生・元教職員と在学生・教職員等の広島大学にゆかりのある方々と東広島市及び広島市の市民の皆さんとの交流・情報交換の場として定着してきている広島大学のホームカミングデーが、今年は次のとおり

開催されます。本会員の皆さんも多くの方にご出席いただければ幸いです。

日時：平成２３年１１月５日（土）

場所：広島大学東広島キャンパス、霞キャンパス等

主なプログラム：

【東広島キャンパス】（サタケ・メモリアルホール）

10:30-11:10　オープニングセレモニー＆フォーラム

11:15-12:30　〈文化講演〉「生きがい－人生の最高峰を目指して－」
プロスキーヤー、冒険家　三浦雄一郎氏

13:30-14:45　〈学術講演〉「依存から自立へ－立ち位置の転換点－」
元三重県知事、早稲田大学大学院教授　北川正恭氏

【霞キャンパス】（広仁会館大会議室）

16:00-17:30　〈講演会〉「テレビ報道のウラ・オモテ」
テレビリポーター・コメンテーター　辛坊次郎氏

オープニングセレモニーで、広島大学マスターズ及び広島大学マスターズ広島の代表幹事による簡単な活動紹介が予定されています。詳細については、「広島大学校友会だより」（第１０号）、あるいは広島大学校友会のホームページ（ＵＲＬはhttp://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/）をご覧ください。

３．第２回総会・交流会の開催状況について

本会の第２回総会及び交流会が次のとおり開催されました。

日　時：平成２３年８月２７日（土）１６：００－１８：００

場　所：広島アンデルセン６階デンマークルーム

出席者：正会員（３０名）、協力会員（１名）、学長・理事・副理事（３名）、計３４名

【第２回総会】

議題：（１）議長の選出、（２）会員・役員の状況、（３）平成２２年度事業報告、（４）平成２２年度決算書、（５）会計監査報告、（６）平成２３年度事業計画（案）、（７）平成２３年度予算書（案）、（８）その他

〔代表幹事の渡邊一雄先生の開会挨拶（要旨）〕

本日は、お暑い中をお集まりいただきありがとうございます。広島大学マスターズ広島は、会員の親睦をはかることと、地域コミュニティへの貢献をすることを目的として１年間運営をしてきました。十分達成できていないこともありますが、当面３つの課題を抱えています。

第一は、会員数の増大です。理系、医歯薬系の会員が少ないので、勧誘にご協力ください。第二は、対外的な評価の向上のため、東広島のマスターズの会員とも連携したいと考えています。第三は、本会の活動の充実のために、会員の皆さんの活動のリストを作成したいと考えています。会員の皆さんのご協力をお願いします。

第２回総会の議事録に関しましては、本会のホームページ（http://home.hiroshima-u.ac.jp/masters2/）をご覧ください。

【懇親会】

次第：（１）開会挨拶
（２）顧問挨拶
（３）乾杯の音頭
（４）懇談
（５）広島大学マスターズ副代表幹事の挨拶
（６）新入会員の紹介
（７）閉会挨拶

〔広島大学の浅原学長の挨拶（要旨）〕

広島大学も法人化して大学でも地域貢献事業を行っていますが、広島大学マスターズ、広島大学マスターズ広島の会員の皆さんも、大学に代わって地域貢献事業に関わっていただいていますことを感謝しています。

マスターズの先生方には、広島大学の教養教育や留学生のための教育にも講師をご担当いただいていますが、これからは２１世紀の社会人の学び直しのために、東千田キャンパスの活用が大事になると思いますので、広島大学マスターズ広島の会員の皆さんのご協力をお願いしたいと考えています。

新しい国際交流を進めるため、研究者や学生の受け入れが重要となってきますが、教育の必要がある場合には、マスターズの先生方に是非ともご協力をお願いしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

〔広島大学マスターズ副代表幹事の安藤忠男先生の挨拶（要旨）〕

５年前に発足しました東広島の広島大学マスターズは、地域社会の支援、広島大学の支援、会員の交流を目的として活動していますが、昨年発足しました広島大学マスターズ広島とも連携して活動を活発にしたいと考えています。そのため、広島大学マスターズ広島の方でも会員の皆さんのデータベースを是非とも早期に作成していただきたいと思います。

広島大学マスターズでは、広島県の東部および北部に活動の場を拡大したいと考えています。東広島の会員は現在６５名ですので、広島の会員の皆さんと一緒になれば、活動の場を広げることが可能になるのではないかと考えています。

現在の任意団体を法人化すれば、まとまった研究の受託も可能になるのではないかと思います。受け皿がしっかりすれば受託研究もできるのではないかと思いますので、東広島でも法人化の問題を検討したいと思います。

【２次会】

日　時：平成２３年8月２７日（土）１８：３０－２０：００
場　所：とり八本店
出席者：８名

２次会にご参加の会員の方からは、それぞれに広島大学マスターズ広島への熱い思いをお話しいただいたようで大変盛り上がったとお聞きしています。そこでご提案のあった次のような趣旨は、渡邉代表幹事から記録にとどめておいてほしいとのことでしたので、ご紹介しておきます。

「本会は、単なる親睦の会ではなく、地域に発信・貢献できる「超頭脳集団」としての性格をもう少し明確にした方が良いのではないか。大学教員だけでなく、事務系の方々、附属の教員（いずれ）など、様々な分野をカバーするプロ集団としての役割を意識して、われわれの組織の強みを生かしてほしい。」

４．日韓理工系学部留学生向けの予備教育授業の担当について

広島大学の理事・副学長（平和・国際担当）の山根八洲男先生（本会の協力会員）から、本会の代表幹事の渡邉一雄先生に対して、広島大学理工系学部に韓国から留学してきている学生向けの予備教育事業への協力依頼を受けました。内容は、数学・物理・化学・生物の４科目につき、日本と韓国の教育内容を比べて、①欠けたところ、不十分なところを補う、②大学教育に対応するための準備の指導で、１０月から３月までの１０週（各科目について週１回（９０分）を担当してほしいとのことです。

本会の渡邉代表幹事が東広島の広島大学マスターズの代表幹事の金田晉先生とご相談され、広島と東広島のマスターズが協力して引き受けることになり、次のように本会からは物理と生物を担当し、東広島のマスターズには数学と化学を担当していただくことになりました。

広島大学マスターズ広島の担当

物理：（責任者）山下英生先生、（担当者）山下英生先生、米倉亜州夫先生

生物：（責任者）渡邉一雄先生、（担当者）渡邉一雄先生、桝井秀雄先生

広島大学マスターズの担当

数学：（責任者・担当者）水田義弘先生

化学：（責任者・担当者）平田敏文先生

５．外国大学の日本への留学希望者向けの夏期特別研修事業の授業担当について

広島大学では、日本の大学への留学を希望する外国の大学で日本語・日本文化を勉強している学生を対象として、日本の大学への留学を勧誘する日本語・日本文化・日本事情の特別研修講座を昨年度から夏季と冬季に開講されています。平成２３年度の夏季特別研修事業では、広島大学マスターズ広島に対して、４科目の日本事情の開講依頼があり、次の４名の会員に４科目を担当していただきました。（氏名の後は退職時の所属）

米倉亜州夫（工学部）「日本の社会インフラ施設」

日時：８月１６日（火）１２：５０－１４：２０

場所：ひろしま国際プラザ

松水征夫（経済学部）「日本の大学生の就職事情」

日時：８月１８日（木）１２：５０－１４：２０

場所：広島大学学生プラザ４Ｆ多目的室

岩崎文人（教育学部）「日本文学入門－漱石と鴎外について－」

日時：８月２３日（火）１２：５０－１４：２０

場所：広島大学学士会館２Ｆ会議室

大杉　節（理学部）「宇宙観測と宇宙開発」

日時：８月２６日（金）１２：５０－１４：２０

場所；広島大学学生プラザ４Ｆ多目的室

今回は、中国からの留学生が２５名（うち男子学生は３名、女子学生２２名）参加していました。宮島や京都の研修旅行も組まれていて、ハードスケジュールのようですが、熱心に聴講する学生が多く、担当いただいた先生方の感想では、中国からの留学生の意気込みを感じたとのことでした。

６．広島大学の教養教育科目「平和科目」の授業担当について

すでに本News Letterでご案内しましたように、広島大学が平成２３年度から教養コア科目として、「平和科目」を２５科目開講することになったことに協力するため、本会では東千田キャンパスにおいて平成２３年度前期において「平和と人間Ｃ－広島で学ぶ（原爆とは何だったか）－」、後期に「平和と人間Ｄ－広島から未来に向けて－」の２科目を担当することになりました。

前期に開講の平和科目「平和と人間Ｃ－広島で学ぶ（原爆とは何だったか）－」は、次のような日程で各講師（氏名の後は退職時の所属）にお願しました。

第１回（４月１１日）　渡邉一雄（総合科学部）―　問題提起と授業の組み立て

（１）戦争とはなにか

第２回（４月１８日）　岡本 明（文学部）―　ナポレオン戦争とヨーロッパ

第３回（４月２５日）　井上研二（総合科学部）―　民族紛争

第４回（５月　２日）　高橋 衛（経済学部）―　戦争と軍縮Ｉ

（２）原爆とは何だったか――ある被爆体験

第５回（５月　９日）　植木研介（文学部）―　ある被爆体験

第６回（５月１６日）　　同　―　被爆と詩歌

第７回（５月２３日）　寺地 遵（文学部）―　被爆体験の重み
第８回（５月３０日）　北川建次（教育学部）―　被爆をどう伝えるかⅠ
第９回（６月　６日）　　同　―　被爆をどう伝えるかⅡ
第10回（６月１３日）　岩崎文人（教育学部）―　小説を通してみる原爆
第11回（６月２０日）　　同

（３）原爆の威力とそれが残すもの

第12回（６月２７日）　石丸紀興（工学部）―　復興と被爆建物の保存
第13回（７月　４日）　武市宣雄（医学部）　―　放射性物質は何を残すか
第14回（７月１１日）　宇吹 暁（原爆放射能医学研究所）―　被爆資料と総括
第15回（７月２５日）　渡邉一雄 ―　むすびー現在から未来へ
第16回（８月　１日）　期末試験（渡邉一雄）

【授業世話人の全体的な感想】

（渡邉一雄先生）

今回は、授業科目名を「平和と人間」とし、広島大学マスターズ（東広島市）と共同タイトルで開講し、東広島キャンパスは「平和と人間A（前期）」および「平和と人間B（後期）」、東千田キャンパスは「平和と人間C（前期）」および「平和と人間D（後期）」の４科目とした。中身は両マスターズがまずは独自に構築し、代表幹事（金田晋、渡邉一雄）が協議・連絡してたがいに了解をとりあった。成績評価法は原則、共通（後述）とした。

まずは、無事に授業が終了したことで、ご協力賜った先生方には一方ならぬご尽力を賜ったことに対し、心から感謝申し上げたい。以下に終了時点でのまとめをしておきたい。

（１）講義のテーマの決定、人選等は、時間がなかったこともあり実質的には幹事会で行ったが、一部、会員の入会申込書に記入された情報を参考にさせていただいた。より公平で適材適所の組み立てが理想的で、このための方法の工夫が必要であろう。まずは『会員情報の充実』が重要と考えている。

（２）依頼にお応えいただいたお礼のほかに、まとめてご授業を聴講して勉強したい強い希望があり、渡邉一雄幹事（総括責任者）および植木研介幹事は全授業に出席した。渡邉が授業開始時に2分程度、担当教員の略歴紹介を行った。各先生の授業スタイルは実にまちまちユニークでありながら内容・含蓄豊かで心から勉強させて頂いた。今後、より多くの会員からの希望聴講の方向も考えられる。

（３）受講生は24名で、多くの学生は前列に着席し聴講態度はきわめて良好で私語は皆無であった。東千田キャンパス開講のため、ほとんどすべての学生は法学部・経済学部夜間主コースであった。

（４）授業内容は、「平和と人間」という総合タイトルのもとに総括責任者が個別テーマを組み立て、これに即して各担当者に自由にお話を願った。学生に対しては、①君たちが広島大学の出身者として外国に行ったとき、ヒロシマとは、原爆とは、と問われて何も答えられないのでは困らないか？②政治的、思想的議論をあえて埒外に置き、“事実（厳しい現実）として”、戦争（平和の反語）とはなにか、原爆投下とはなにか、厳しく問いつめること、の二点を念頭に置いた学習を求めた（シラバスに明記）。受講後の学生のレポートは概して好評で、中に「自分は広島出身で小学生のときから平和教育を受けてきたが、正直やや嫌気がさしていた。しかし、今回はまったく新鮮で勉強になった」という意味のこと書いた学生がおり、企画者としてやや我が意を得ている。

（５）成績評価は、①各回提出の授業レポート（終了前2分間に「まとめと感想」を書かせ3点満点で担当教員が採点）の単純和で、3点×15回＝45点。②平和科目の必須要件「平和レポート（タイトル自由）」の20点（採点は2名の教員が各10点満点で行い、その単純和）。レポートは学生24枚×教員2名＝48枚あり、教員11名なので、教員１人当たり4～5枚の採点のお願いとなった。③期末試験が35点満点（担当教員11名が各一問ずつ出題。各授業の終了時に「期末試験問題」をあらかじめ学生に提示した）。試験は筆記試験60分（持ち込み不可）で実施し、採点は出題者にお願いした。成績評価は、①45点＋②20点＋③35点＝100点満点とし、通常通りA～D評価とした。

（６）ティーチング・アシスタント（TA）として下向井紀彦君（文学研究科）が、準備段階から全回、対応してくれた。資料作成、講義時の機器操作、授業開始時の準備、授業終了後の「出席レポート」回収、最終的な成績の集計など、総括責任者の指示のもと完璧にこなしてくれた。

（７）担当教員の居所、空き時間などの状況がばらばらであるため、今後、連絡方法、控え室の使用条件、総括責任者、TAとの連携方法など、さらなる改善の余地があろう。今回は幹事２名が常に参加し、担当者、TAと講義前後

に会話を行うことができ、充実した交歓ともなった。コピー機の使用、連絡業務などの東千田キャンパスの事務方との連携も適切に行われた。これも皆様に感謝したい。
（8）なお、今回の授業に対する謝金（給与）については、広島大学マスターズ広島の会則の７の「拠出金」に関する規定と「拠出金に関する細則」に基づき、交通費、税金、その他の必要経費を控除した額の10%を計算し、会員各自において会計幹事に納付して下さい。徴収方法はもっとも適切な方法とします（改めてご連絡します）。

（植木研介先生）
1995年から、広島大学に留学したアジア・アメリカ・ヨーロッパの学生に「ヒロシマで学ぶことの意義」をオムニバス講義の一コマを使って英語で語ってきた。場所は文学部の「留学生向の講義」の中の「アジアの思想と宗教」の中である。これが、次第に、わたしの原爆体験としてまとまりができかけた1999年に、総合科学部の舟橋喜恵先生から、「総合科目」の一つとして、戦争と人間を巡る講義をオムニバスの中で話をしてほしいとの依頼を受けて「ヒロシマの原爆と詩歌」という題で定年まで講義をさせてもらった。この講義は、「総合科目」という講義のあり方は「教養教育」の中で問題になったが、戦争と人間を巡る講義はオムニバスではあっても毎回の講義に、舟橋先生が出席されて一貫性がたもたれていた。先生が退職されてからは、田村和之先生、布川弘先生がアンカーマンの役を引き継がれた。
このたび広島大学マスターズが「平和科目」として東千田キャンパスで「人間と平和」（C,D）をすることになり、心配したのは、全体に一貫性があるか、また内容に重複が無いかという点が計画時のわたくしの心配でした。この点を実際に体験するため出来る限りの講義に出てみました。井上研二先生の「民族紛争」に出席できなかったのは残念です。というのは、民族紛争は「戦争に正義」はあるかという問題に一番触れる講義だからです。しかし、連続講義が終わっての感想は一貫性がありながら、多角的な側面から平和の問題が論じられているとの判断を持ちました。内容の重複はほとんどありません。杞憂でした。

【前期における授業担当者の個別の感想】
（岡本　明先生）
18～19 世紀ヨーロッパ近代史は、20 世紀現代史とでは歴史の質が異なり、ナショナリズムも変質する。受講生にはこのことを伝えて、歴史の中の戦争と平和を考えてもらうことをねらいとした。近代史のナショナリズムは、フランス革命の延長として、立憲自由主義と結びつき、ナポレオンの担ったものにもその要素があった。個人的権利に基礎をおいた民法上の自由をドイツ、イタリ アで適用した（隷農制廃止の試みも）。それは国境・民族を超えて拡がる普遍主義であり、ナポレオンが最後の啓蒙君主と呼ばれる理由もそこにある。
だから、単に「国境を超えたところから侵略戦争が始まる」「やはり平和がなによりだ」というものさしでは、この歴史問題を解くことができない。 受講生諸君の答案には、この点でナポレオンを見直した、というコメントが少なからずあってよかったと思う。しかし 1812 年のロシア遠征は、改革を犠牲にした戦争であった。ボ ロジノ会戦のように戦争の悲惨さがこの近代の総力戦に もやはりある。これを後期の授業では強調しようと思う。

（井上研二先生）
私は「民族紛争」というテーマで「広島」や「原爆」「被爆」とは直接関係のない講義を行ったが、「なぜ戦争（紛争）は起きるのか」「平和とは何か」という問題をはじめ、民族と宗教の問題、さらにはパレスチナ紛争の歴史的背景や現状を主たる題材に世界の民族紛争を解説したが、広島で行う「平和科目」という特質を考えれば、「原爆」「被爆体験」という話は避けて通れないテーマではあることに異論はないが、大学教育である以上、「平和とは」「戦争（紛争）はなぜ起きるのか」という根源的な講義をもう少し多く取り上げてもよいのではないかと感じている。

（高橋　衛先生）
約 20 年ぶりの広大での講義であった。退官後、私立大学や一般的な市民向けの講義は、つづけてきたが、広大での講義は久しぶりのことで、少々緊張を覚えた。「平和科学」ということで、必ずしも専門（現代日本経済史）のテーマでもなかったし、明治時代に遡る歴史的な話をしたので、学生の理解度を判断しながらすすめたが、どうやら理解してくれているようで、ほっとした。しかし、昨今の学生は、近代史は、苦手のようだし、加えて、戦後教育が余りにも一般的な単純な平和論を通念化してきたので、些か捻った筋立てには戸惑いもうかがえた。とくに戦前の日本といえば好戦的で戦争の一方的な仕掛け人という単純すぎる歴史認識に、少々批判的な講義を

どこまで真に理解してくれたか、ちょっと不安の残る後味ではあった。

（植木研介先生）

わたくしの被爆体験は未だ１歳になる前のもので、わたくしの記憶には全く残っていない。にもかかわらず左目に網膜に達する長さ８センチの傷を、爆風により砕けたガラス破片によって原爆は残した。傷は負ったが、記憶はない、という奇妙な被爆体験を一生背負うことになる。しかし広島で育ったわたくしには被爆体験を語る大人が母をはじめとして大勢あり、その原爆にまつわる話の中で大きくなっていった。そのため強い恐怖心から原爆に関するものが嫌になり、毎年８月６日が近付くと体調がおかしくなることが起こるようになる。年月が経るに従って何とか克服しようとしていて遭遇したのが、被爆５０周年を機会に広島を訪問したイギリスの新聞「ガーディアン」の記者を、「中国新聞」の外報部の記者と、原爆資料館を案内する機会であった。これによってわたくしは被爆による PTSD からほとんど逃れることができた。学生からの反応には「先生のような形の PTSD もあるのですね」というものがあり、話の内容が伝わったと安堵している。

もう一つの講義は原爆を詠った詩歌がよく朗読会などで読まれるが、それらの詩歌が文学作品として何故立派な文学作品になっているのかを文学技法の点から分析したもので、少し年配の学生から、「はじめてあのような視点からの話を伺いました。有難うございました」と声をかけられた。後期の講義ではこちらの講義の話を中心に展開しようと思っている。

（寺地　遵先生）

東千田「平和科目」講座、無事終了とのこと大慶至極です。企画・計画立案にあたられた方々には誠に御苦労様でした。心より感謝いたしております。

ところで感想を述べよとのことですが、私には謝辞以外に特にありません。更に退職後十年も経過しておる者としては尚更です。只強いて希望としては、①この企画を続けるためには聴講学生がこの講義をどう受取めたのか、少し調べてみる必要があると思います。②東千田キャンパス分については、折角の企画ですし、教室に余席もあったようですから、「公開講座」も兼ねて可能な範囲で市民講座も認めてはいかがでしょうか。

（北川建次先生）

このたび平和科目を担当させていただく事ができ、大変感謝しています。

核廃絶、人類が滅亡してしまう核の恐しさを、被爆者としてどうしても後世に伝えて行かなければなりません。受講してくれた学生諸君は、原爆の恐ろしさ、人道上許せない大量虐殺、ジェノサイドを、決して繰り返してはいけないことを、理解してくれました。

広島の地で勉学する学生諸君は、ノーモアヒロシマズの精神に徹してヒロシマの精神を世界へ広めていくことが大切です。

（岩崎文人先生）

「文学に描かれた８月６日」と題した講義を行った。必ずしも文学に関心のある学生ばかりではなかったが、授業での様子やアンケートなどによれば、こちらの意図したもの――被爆作家それぞれが迎えた８月６日、原爆文学が形象化されていったプロセスと時代背景、表現された８月６日の今日的意義などを十分受け止めてもらえたように思う。文学作品の紹介のほか、被爆文学者の文学碑なども紹介した。

（武市宣雄先生）

渡邉一雄教授から私に与えられたテーマは“放射性物質は何を残すか”でした。原爆、水爆、劣化ウラン弾、原子力潜水艦等は兵器としてヒトの殺傷の為に使われ、原子力発電所や、癌治療や診断用の医療用放射線はヒトの生活に役立てられています。その使われ方を説明し、更に基礎知識としての放射線の種類、線質、単位、 自然放射線量、外部と内部被曝、低線量被曝、人体に影響を与える線量、等の話をしました。原発事故は何をもたらしたのか。チェルノブイリと福島原発の問題点も加えました。あまりに多くの資料を示しました為、学生さんの理解が得られ難かったのではないかと心配しています。次回はもう少し分り易く説明したいと思います。

（宇吹　暁先生）

タイトル「原爆被爆資料をめぐって」を担当しました。構成は、Ⅰ.私の「ヒロシマ」体験、Ⅱ．原爆被爆資料をめぐる時代状況の2本柱とし、Ⅰは導入部分のつもりでしたが、これで時間の大半をとってしまい、中途半端な展開となりました。私語も無く熱心に受講していた学生との質疑応答の時間のなかったことが悔やまれます。

後期に開講の平和科目「平和と人間Ｄ－広島から未来に向けて－」は、次のような日程で各講師（氏名の後は退職時の所属）にお願いします。

第１回 （１０月　５日）　渡邉一雄（総合科学部）―　問題提起と授業の組み立て
（1）戦争は何をもたらすか
第２回 （１０月１２日）　岡本　明（文学部）―　ナポレオン戦争とヨーロッパ
第３回 （１０月１９日）　高橋 衛（経済学部）―　戦争と軍縮Ⅱ
（2）被爆体験をどう伝えるか
第４回 （１０月２６日）　北川建次（教育学部）―　被爆体験（1）
第５回 （１１月　２日）　岩崎文人（教育学部）―　被爆体験（2）
第６回 （１１月　９日）　寺地　遵（文学部）―　被爆体験（3）
第７回 （１１月１６日）　植木研介（文学部）―　被爆体験（4）
第８回 （１１月３０日）　宇吹　暁（医学部）―　被爆資料と総括
第９回 （１２月　７日）　　同　―　映像の提示・解説
（3）原子核科学が人類に残すもの
第10回（１２月１４日）　大杉　節（理学部）原爆の威力
第11回（１２月２１日）　　同　―　原発を考える
第12回（　１月１１日）　武市宣雄（医学部）　―　被爆と人体
第13回（　１月１８日）　武市宣雄（医学部）　―　これからの放射線医学
第14回（　１月２５日）　渡邉一雄（総合科学部）―　同位元素標識、バイオ兵器
第15回（　２月　１日）　渡邉一雄（総合科学部）―　むすび－現在から未来へ
第16回（　２月　８日）　期末試験　（渡邉一雄）

７．会員のデータベースの作成について

広島大学マスターズ広島の活動は、いまのところ大学からの依頼の事業が多くなっていますが、これからは本会が独自に企画にした具体的な事業の展開を考えたいと思っています。そのために、会員の皆様方の得意分野・特技などに関する情報のデータベースを作成させていただきたいと思います。東広島の広島大学マスターズとも連携する際に必要不可欠の情報となると思います。

会員の皆様方には、得意分野・特技などに関する情報を入会申込書にお書きいただいていますが、今後の本会の活動の参考にさせていただきたいと思いますので、あらため全会員により詳細なアンケートをさせていただきます。お忙しいところを恐縮ですが、同封のアンケート用紙に必要事項をご記入のうえ、１０月１７日（月）までに本会事務局宛に同封の封筒によりお送りください。

広島大学マスターズ広島事務局
〒730-0053
広島市中区東千田町一丁目１番８９号
広島大学東千田地区支援室気付
（ＦＡＸ）082-542-6964
(E-mail) masters2@hiroshima-u.ac.jp